

南ア月報  
(2022年10月)

【内政】

- ズマ前大統領の法廷侮辱罪に係る刑期終了
- ラマポーザ大統領による、ゾンド委員会報告書の勧告に係る演説

【外政】

- 日・南アパートナーシップフォーラムの開催
- ラマポーザ大統領のサウジアラビア訪問
- 「西サハラ大統領」の南ア訪問
- スペイン首相の南ア訪問
- レソトの新首相就任式への出席

【経済】

- 消費者物価
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高

<出来事>

- 2022年度中期財政政策演説

## 1 内政

### ●ズマ前大統領の法廷侮辱罪に係る刑期終了

7日、現在医療仮釈放中のズマ前大統領の法廷侮辱罪に係る刑期について、矯正省は同前大統領の刑期（15ヶ月）が終了した旨を発表した。

### ●ラマポーザ大統領による、ゾンド委員会報告書の勧告に係る演説

23日、ラマポーザ大統領は演説を行い、ゾンド委員会報告書の勧告に係る今後の主な施策（新しい汚職対策機関の設立等）を発表した。

## 2 外政

### ●日・南アパートナーシップフォーラムの開催

12～13日、日・南ア・パートナーシップフォーラム(PF)が日本にて開催され、パンドール国際関係・協力大臣が訪日。13日、日・南ア外相会談及びワーキング・ディナーが開催され、両大臣は、同パートナーシップフォーラムにて実施された各セッションにおいて両国の間で有意義な議論が行われたことを確認するとともに、様々な国際・地域情勢について協議した。

### ●ラマポーザ大統領のサウジアラビア訪問

15日～16日、ラマポーザ大統領はサウジアラビアを国賓訪問し、ムハンマド・サウジ首相に迎えられた。両国家元首は、これまで続けてきた二国間協力の戦略的パートナーシップ関係を強固なものとしたことを確認し、ラマポーザ大統領は、サウジアラビアと経済的なつながりを拡大する方針を明確にし、両国間で17の覚書が署名された。

### ●「西サハラ大統領」の南ア訪問

18日、ガリ「西サハラ大統領」は南アを国賓訪問し、ラマポーザ大統領と会談した。

### ●スペイン首相の南ア訪問

27日、スペインのペドロ・サンチェス首相が南アを訪問し、ラマポーザ大統領と南ア・スペイン間での既存の協力関係の促進につき協議した。

### ●レソトの新首相就任式への出席

28日、ラマポーザ大統領は、同月に総選挙を実施したレソトにおいて新首相に選出されたマテカネ首相の就任式に出席するため、レソトを訪問した。ラマポーザ大統領は同式典において、「姉妹国」であるレソトへの祝意を述べた。

## 3 経済

### <経済指標>

#### ●消費者物価

2022年9月の年間消費者物価インフレーション率は7.5%で前月(7.6%)に比べ0.1%下降した。消費者物価指数(CPI)は前月から0.1%上昇した。(南ア統計局、10月19日)

#### ●為替レート

2022年10月31日付(南ア準備銀行)

8.0948 ランド/円  
18.3075 ランド/米ドル  
18.1555 ランド/ユーロ

### ●製造業生産高

2022年8月の製造業は、前年同月比1.4%増。主なプラス要因は、自動車及び輸送機器関連製品で21.2%増、鉄鋼、非金属製品、金属製品及び機械で4.9%増。

また過去3ヶ月（2022年5月～2022年7月）の季節調節後生産高は2022年2月～2022年4月の3ヶ月から4.2%減。製造業10部門中の7つの部門で生産高減となった。（南ア統計局、10月11日）

### ●鉱業生産高

2022年8月の鉱業生産高は、前年同月比8.4%減。主なマイナス要因は、白金で12.9%減、金で17.4%減、鉄鉱石で15.2%減。

また過去3ヶ月（2022年6月～2022年8月）の季節調節後生産高は2022年2月～2022年5月の3ヶ月から0.6%増となった。（南ア統計局、10月13日）

### <出来事>

#### ●2022年度中期財政政策演説

26日、ゴドングワナ財務大臣が2021年度中期財政演説を行った。ポイントは以下の通り。

（1）インフレ率の上昇、金融引締め、中国の更なるロックダウンの実施とそれに伴う世界経済及び世界サプライチェーンへの影響を含むCOVID-19の影響、ロシア・ウクライナの戦争の勃発など、2月の財政政策演説で述べたリスクが現実のものとなった。

（2）2022年堅調な景気回復を見せていた国内経済は、KZN州及び東ケープ州を中心とする国内各地での洪水、主要部門のストライキ、広範囲に及ぶ停電により頓挫。2月の財政政策演説では、実質GDP成長率を2.1%と予想していたが、1.9%に下方修正。また、今後3年間のGDP成長率は1.6%予想。

（3）公共部門における新規インフラ建設及び既存インフラの修復のための政府支出は、2022年度の667億ランドから2025年度には1,125億ランドに増加する。

（4）2022年度の連結財政赤字はGDP比4.9%と予想されているが、これが2025年度にはGDP比3.2%に減少。また、2023年度にはGDP比0.7%の基礎的財政黒字化が達成見込みであり、これは、2021年の中期財政政策演説での予想より1年早い。

（5）歳入では、2月の財政演説以降、歳入が予想を上回り、総税収見込みは、835億ランド増の1兆6800億ランドに修正。

（6）予想を上回る歳入見込みにより、政府は赤字を縮小し、長引くリスクや新たなリスクを軽減することが出来た。

（7）Eskomの長期的な財務的実行可能性を確保するため、政府は4,000億ランドの債務の大部分を引き受ける。関連する債務の選択及び救済方法についてはまだ決定されていないが、その規模はEskomの現在の債務の3分の1から3分の2になると予想。

（8）FATFのグレーリスト入りを回避するため、政府は必要なあらゆる事を行っている。既に議会に提出した2つの法案は年内に成立予定で、これは、FATFが行った40の勧告を満たす重要なステップとなる。